

2015年11月30日

久留米大学医学部医学教育研究センター

<http://csme.asuscomm.com/wp/>

神代龍吉、安達洋祐、柏木孝仁、北川周子

1. TBL 講習会

11月25日(木)18:00~19:30に1611教室でTBL講習会を開催した。ファシリテーターは北川周子(熊本大学教授システム学専攻大学院生、当センター臨時職員)。出席は僅か7名だったが、2グループに分けてTBLの実際を体験してもらい、大いに議論が盛り上がった。また簡易TBLのシナリオを神代が紹介した。クリッカーを利用したTBLであったが、今後はタブレット端末を使用したTBL環境を整備していく予定である。

2. Mini FD の開催

Learning Management System (LMS) として当センターでMoodle[®] (ムードル) を構築した。これは授業で使用する資料の配布、小テスト、提出物の回収などができるシステムである。基礎編を11月30日(月)と12月21日(月)に、中級編を1月18日(月)と2月24日(水)に予定している。開催時間はいずれも17:00~18:00、場所は1611教室。

3. e-ポートフォリオの準備

学生の学習過程で創出されたもの(ノート、レポート、学習記録、資料集、成績、発表物など)を成果として残し、学生が達成度を確認・客観化し、達成感や自尊心を誘導し、次の学習行動につなげるというのがポートフォリオである。これを技術的にサポートするe-ポートフォリオシステムとしてMahara[®]を準備中である。具体的には学生自身の学修履歴のほか臨床実習、早期体験実習、多職種連携授業等で学生の提出物、評価、返却、保存管理を電子的に行える。ポートフォリオは全国的には38大学で導入され、うち20以上が電子化されている(医学教育2015, 46: 441-2)。100冊以上のファイルを教員がいちいち開かずともパソコン上で作業できて、教員の負担軽減も期待される。

4. TBL の紹介

当センターHPのe-ラーニングサイトに佐賀大学医学部のTBL風景をアップした。小田康友(佐賀大学医学部地域医療科学教育研究センター教授)のご厚意でいただいた。学生が予習し、グループ討論し、教員がファシリテーターとなり、さらにリソースパーソンも登場する本格的なスタイルのTBLである。本学でもこのような授業がより多く導入されることが望ましい。

5. 6年生模擬試験成績の解析

テコム第3回、第4回の成績を解析中である。この2回の模擬試験は卒業合否判定基準の参考にされるとカリキュラムブックに明記されているので、卒業判定に有用な解析結果を提供するために鋭意解析中である。第3回模擬試験の全国順位が判明する12月中旬を目途に

結果を報告したい。

6. クリニカル・クラークシップに関するアンケート

クラークシップとして学生を受け入れている講座・部門から得られたアンケート回答を集計した。この結果は教務委員会に報告する。

7. 医学教育研究センター年鑑の発行

当センターの活動を1年ごとにまとめた年鑑(アニュアルレポート)を発行することとした。これまでのマンスリーレポートとニュースレターを併せての印刷媒体とし、年度末までに発行する予定とした。

8. 学会活動

11月28日、「日本臨床外科学会総会」(会長 山下裕一福岡大学教授)の学生セッションで安達が座長を担当した。全国7大学の医学生8人(3~6年生)が研究発表や症例報告を行い、学生同士の質疑応答も活発であった。最優秀演題には、「あるべき外科系クリニカル・クラークシップの実態」(岡山大学)が選出された。

9. 医学教育学会の案内

第47回日本医学教育学会は2016(平成28)年7月29日(金)~30日(土)に高槻市の大阪医科大学で開催される。学生セッションや学生シムリンピック(31日開催予定)への参加を経済的な面を含めてバックアップしていくこととした。シムリンピックはMedical Simulation Olympicの略で、5,6年生3人一組のOSCEコンテストで、2015年度は自治医科大学が優勝した。このコンテストの背景については下記のサイトを参照。

<http://kyoiku.yomiuri.co.jp/torikumi/jitsuryoku/iken/contents/post-438.php>

以上